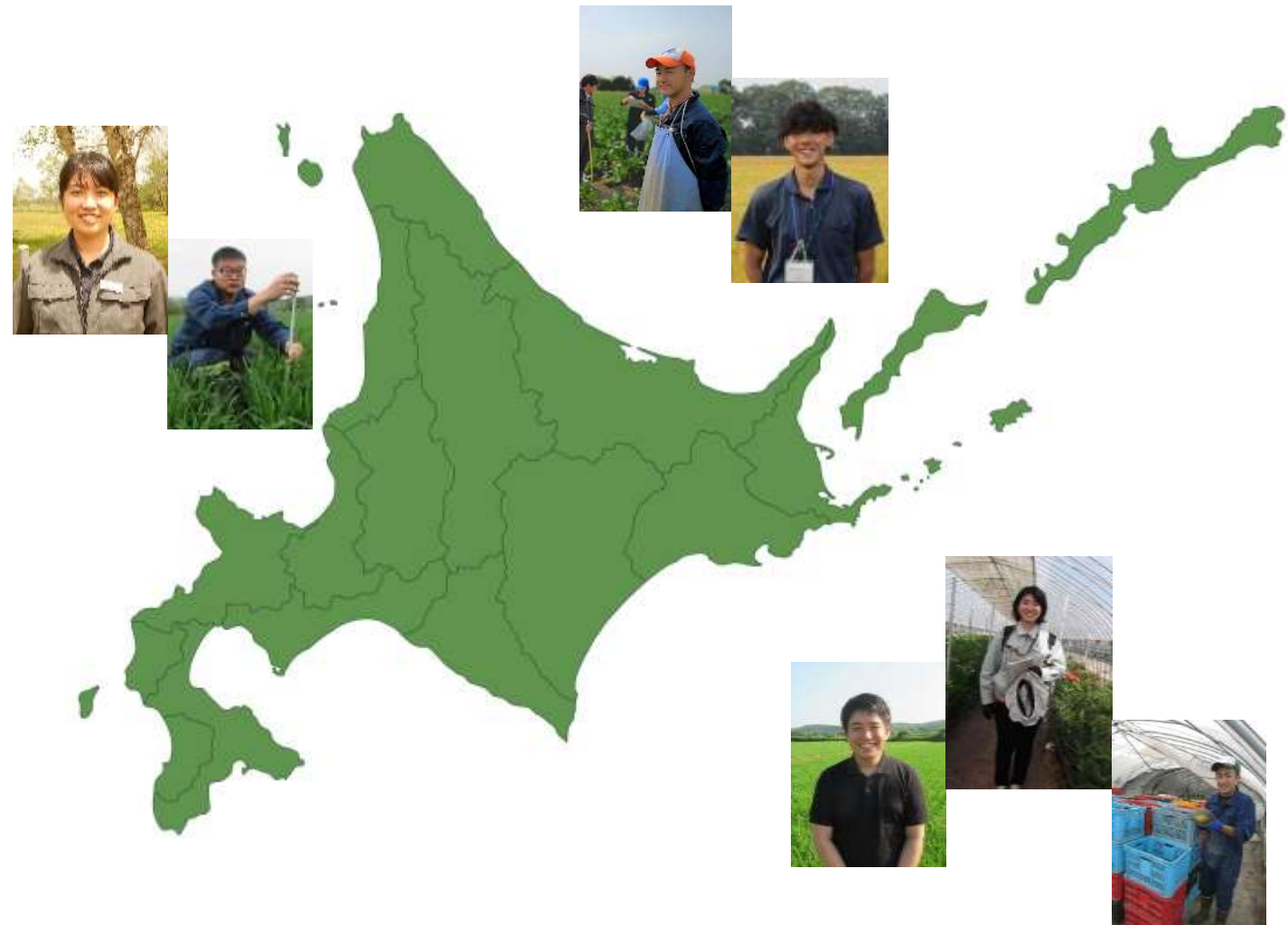




先輩普及職員からの メッセージ



人を育て、人をつなぎ、
地域を元気にする。
北海道の普及職員。





北海道の農業



冬



← 3月下旬、春の農作業が遅れないよう、ほ場に融雪剤を散布し、営農の準備を行います。

春



↓ 秋、間もなく収穫を迎える水田の風景です。好天に恵まれた収穫時期は、秋の空と実った稲穂がすばらしい景観を形成します。

秋



↑ 春、馬鈴しょ（じゃがいも）の植え付け作業を行います。4月下旬から5月中旬が最盛期です。



夏

↑ 夏、小麦の収穫の様子です。秋まき小麦は7月下旬から、春まき小麦は8月中旬からコンバインなどの機械で収穫を行います。

↑ 初夏、牧草の収穫が始まります。6月から一番草、8月からは二番草の収穫適期を迎えます。



← 道東や道北の酪農地帯では、このような乳牛の放牧風景をあちこちで見ることができます。



道の普及職員 5つのポイント

1 北海道ならではのスケールメリット

北海道の農業と都府県の農業を比べると、耕地面積や農業所得といった経営規模や経営形態、食料自給率などに大きな違いが見られます。北海道では広大な大地を活かし大規模で生産性の高い農業が展開されており、我が国における食料の安定供給に大きく貢献しています。

2 道外出身・道外大学卒業の方も大歓迎

道外出身の方や道外大学卒業の方が採用試験で不利になることは一切ありません。都府県とは異なる北海道の農業のことを詳しく知らないのは当然で、入庁後に覚えることができます。道の普及職員の中には、道外の大学のOB・OGが数多くいますが、就職して初めて北海道に住んだという職員もいます。

3 入庁してから身につく仕事、伸びる仕事

新規採用職員が配属された普及センターでは、先輩職員をトレーナーに任命し、日常の普及活動を通じて所内全体で新規採用職員をサポートします。また、一人前の普及職員への養成するための研修体制も非常に充実していますので、業務に必要な能力をしっかりと身につけることができます。

4 思う存分、普及の仕事に打ち込める

道の普及職員には、都府県と異なり行政や研究とのジョブローテーションはありません。原則、生涯にわたって農業改良普及事業に携わることができますので、普及職員としてじっくりと業務に専念しながら、自身のキャリアプランを立てていくことができます。

5 仕事もプライベートも充実、先輩普及職員が活躍中

669名の普及職員が道の普及事業を支えています。職員紹介のページ(10~26ページ)では、現場で活躍する先輩普及職員の姿を通して、仕事内容はもちろん、普及センターの活動内容や職場の雰囲気、さらに北海道での生活や転勤して感じたことなども紹介します。

MESSAGE 01

道の普及職員を目指す皆さんへ

現在、北海道は耕地面積1,143千ha、総農家戸数34千戸、農業産出額12,667億円で、国内の総産出額の14%を占める国内最大の食料供給地域となっています。また、食品加工や観光などの地域産業と結びつき、地域の社会経済を支える重要な基幹産業となっており、さらには私たちの生活に豊かさや潤いをもたらす農村景観など、北海道の農業・農村は道民の貴重な財産となっています。

北海道の普及指導員は、この国内有数の農業地域を生産技術と経営の面から支援しています。全道44か所の農業改良普及センター本支所等に配属された669名の普及指導員が、水稻、畑作、園芸、畜産などの各分野で安全・安心な農畜産物生産と農村地域の振興を市町村やJA等と共に進めています。

この広大な北海道の農業・農村を更に発展させていくためには、意欲溢れる若き皆さんの力を必要としています。是非、私たち669名の仲間そして農業者の皆さんと一緒に、北海道農業を盛り上げていきましょう。

令和4年10月

未来の北海道農業を支えるのは あなたです



■ 北海道出身

■ 酪農学園大学 卒業

昭和62年度入庁

農政部生産振興局技術普及課

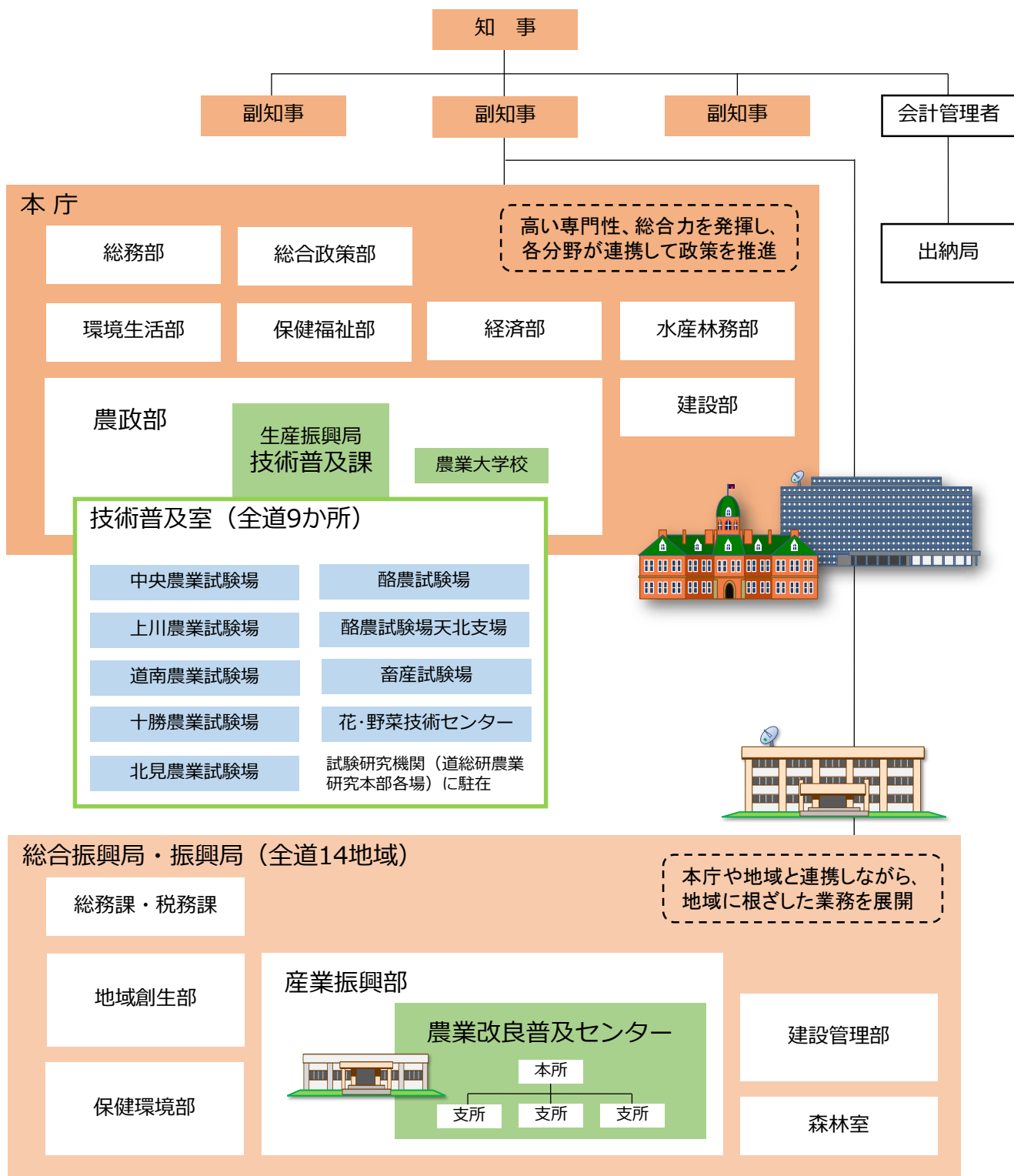
MATSUI KATSUYUKI

首席普及指導員

松井 克行



道の普及組織図



●道の農業関係の行政組織（総合振興局・振興局）について
 各総合振興局・振興局には、産業振興部に農務課や農村振興課（振興局によっては調整課、整備課及び耕地出張所）などの農業関係部署が置かれており、管内の農業改良普及センターと連携して、地域の農畜産業の振興、農地整備、農村環境等の整備などに関する仕事をしています。

（各課の主な業務）

- ・農務課 … 普及センターの運営支援、農畜産物の生産振興・付加価値向上、農業経営の改善指導、農業振興の補助金、農業関係資金、農地の利用集積、担い手の育成・確保、農業・農村の振興 など
- ・農村振興課（調整課・整備課・耕地出張所）… ほ場の大区画化、ほ場の排水整備、用水の整備 など

道の普及事業

協同農業普及事業とは

協同農業普及事業は、農業改良助長法（昭和23年制定）に基づき、国と都道府県が協同して、高度な技術・知識を有する職員として普及指導員を置き、普及指導員が直接農業者に接して農業経営や農村生活の改善に関する科学的技術や知識の普及指導を行うこと等により、主体的に農業経営や農村生活の改善に取り組む農業者の育成を図りつつ、農業の持続的な発展や農村の振興を図ろうとするものです。

普及指導員の行う事務とは

◎ 調査研究

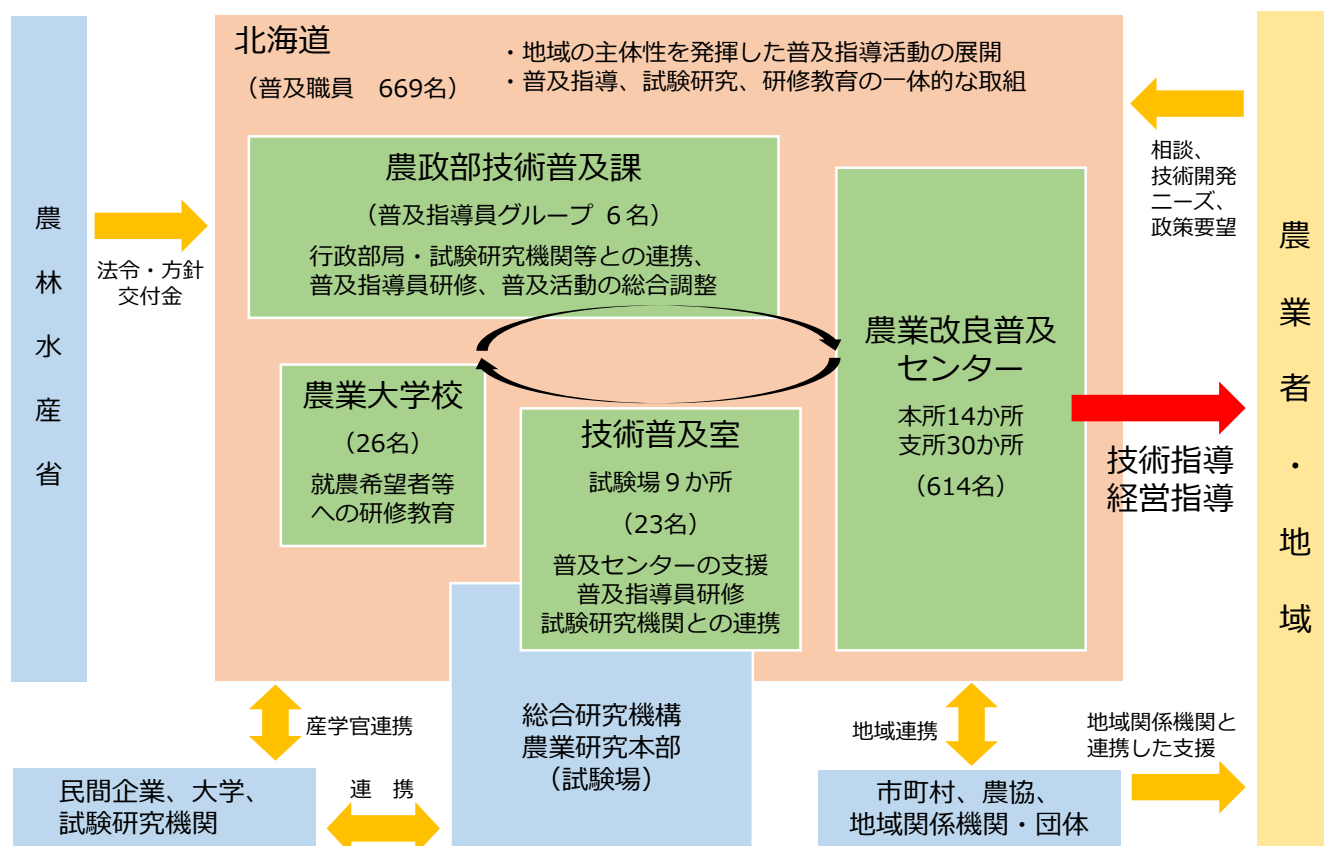
試験研究機関、市町村、農業団体、教育機関等と密接な連絡を保ち、専門の事項や普及指導活動の技術・方法について調査研究を行うこと。

◎ 普及指導

巡回指導、相談、農場展示、講習会の開催などの手段により、直接農業者に接して、農業生産方式の合理化や農業経営・農村生活の改善に関する科学的技術・知識の普及指導を行うこと。



道における農業改良普及事業の仕組み



● 農政部技術普及課の業務について

農政部技術普及課には、上図の普及指導員グループの他にも、5の係が置かれており、28名の行政職員が各所管業務を担当することで、行政と普及が連携して、農業技術の改良普及を支えています。

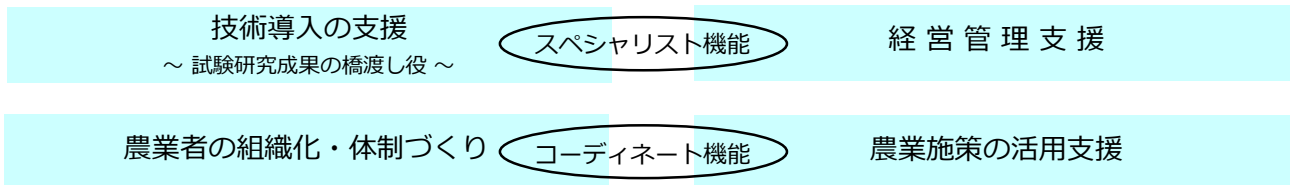
(各グループの主な業務)

- ・調整係・普及推進係 … 普及事業の組織、人事管理、予算編成、普及センター・技術普及室の運営にすること など
- ・調整係(研究連携・スマート農業) … スマート農業の推進、農業技術・情報、農業気象、試験研究機関との連携にすること など
- ・担い手対策係 … 新規就農、農業大学校の運営、女性農業者・高齢者の活動促進、指導農業士・農業士にすること など
- ・農業環境係 … 植物防疫、農薬、バイオマス、肥料など生産資材、農業機械、鳥獣被害防止対策に関する事など
- ・重要病害虫担当 … ジャガイモシロシストセンチュウに関する事



普及職員の業務

基本的役割



活動方法



営農技術情報の提供



道の普及事業 3つの基本理念

◎地域の目となり耳となる普及

地域の実情や農作物の生育状況などに的確に対応するため、普及職員のコミュニケーション能力や技術と経営の知識・経験に裏打ちされた地域課題の分析を担う地域の目となり耳となる普及活動を推進する。

◎農業者の側（そば）に立つ普及

農業者の経営環境や生活環境などを踏まえ、担い手の視点に立って、主体的かつ積極的に農業経営・農家生活の改善に取り組む農業者を支援する。

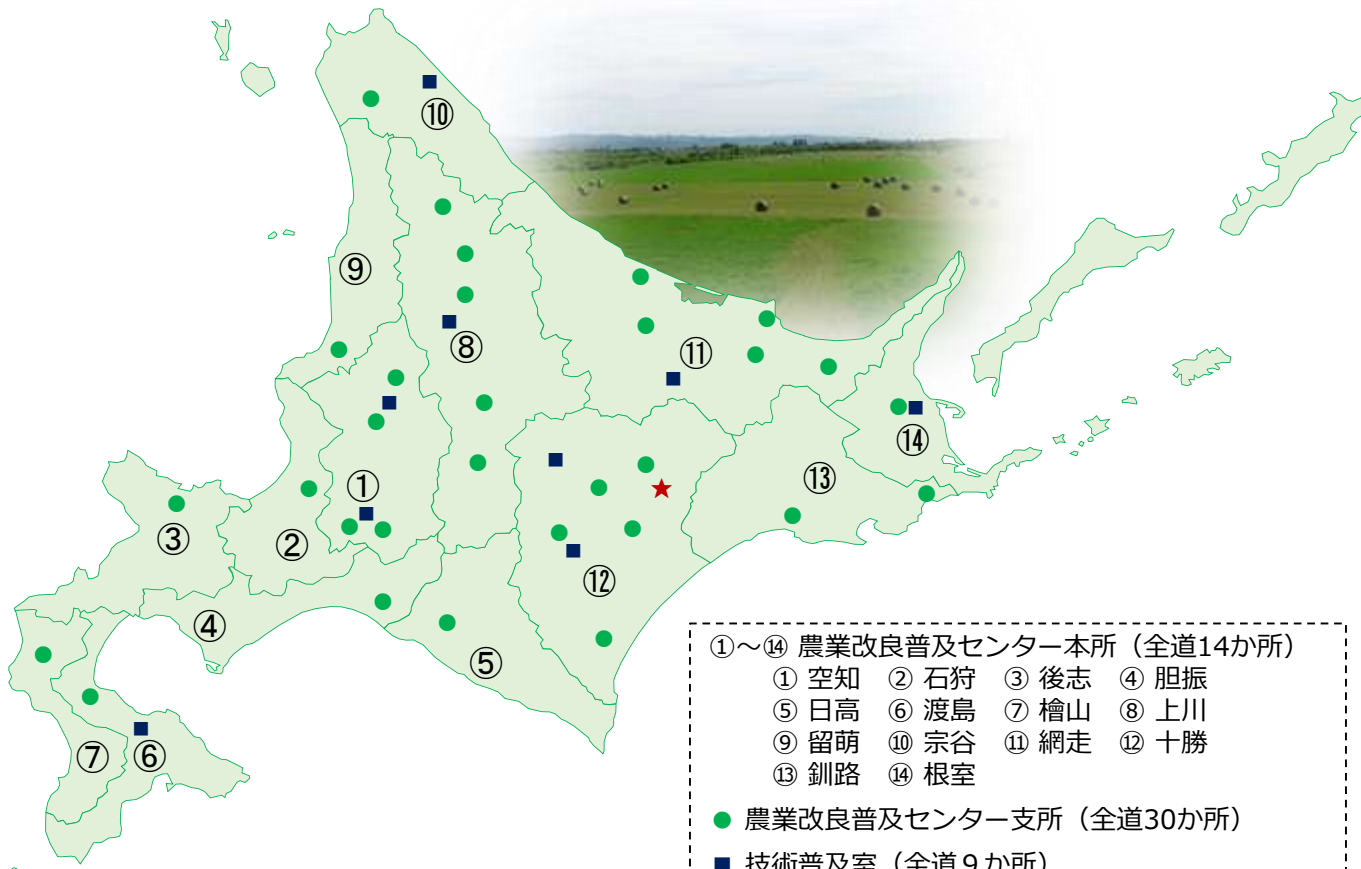
◎地域の知恵袋となる普及

農業・農村を取り巻く環境が大きく変化する中で、普及組織が持つ様々な技術や経営管理手法などの蓄積の活用とともに、試験研究や行政施策との連携機能を発揮し、地域の知恵袋となる総合的な提案活動を推進する。





普及職員の職場



- ①～⑭ 農業改良普及センター本所（全道14か所）
- ① 空知 ② 石狩 ③ 後志 ④ 胆振
 - ⑤ 日高 ⑥ 渡島 ⑦ 檜山 ⑧ 上川
 - ⑨ 留萌 ⑩ 宗谷 ⑪ 網走 ⑫ 十勝
 - ⑬ 釧路 ⑭ 根室
- 農業改良普及センター支所（全道30か所）
- 技術普及室（全道9か所）
- 農業研究本部
 - 上川農業試験場
 - 十勝農業試験場
 - 酪農試験場
 - 畜産試験場
 - 道南農業試験場
 - 北見農業試験場
 - 酪農試験場天北支場
 - 花・野菜技術センター
- ★ 道立農業大学校

普及センターの活動事例

水稻直播栽培の普及定着（渡島地域）

稲作農家の高齢化や担い手不足等に対応するため、水稻直播栽培の普及に取り組んだ結果、全道平均を上回る直播普及率5.7%を達成するとともに、地域ブランド米として地産地消、有利販売を支援しました。



小麦10俵取りプロジェクトによる収量増加（美唄市）

小麦の「単収10俵」産地を目標に、農協・市と連携してプロジェクトを実施し、普及センターによる提案技術の実践により、地域生産者の小麦収量が増加しました。



イアコーンの導入による耕畜連携の推進（安平町）

農業者・農協・町が連携し、イアコーンサイレージを利用した耕畜連携を推進しました。普及センターが栽培技術を指導することで安定生産を支援し、地域における耕畜連携の仕組みを確立しました。



道内のパプリカ産地の確立（北後志地域）

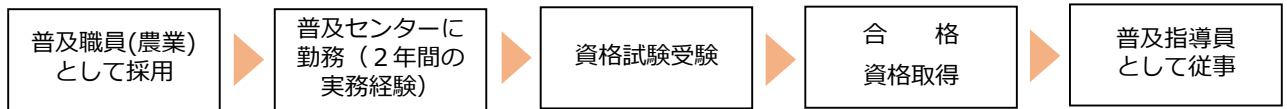
ハウスの温度管理や適期防除などパプリカの栽培技術支援に取り組んだ結果、対象農業者の収量が増加するとともに、生産組合全体の出荷量の増加にも貢献しました。





普及職員の資格

普及指導員として任用されるには、農林水産省が実施する普及指導員資格試験に合格する必要があります。新規採用職員は普及職員として普及センターに配置され、資格を有する先輩職員をトレーナーとするOJTとして、直接、農家などに出向いて、生産技術の指導や各種講習会を行うなど普及指導に従事します。採用後2年を経過した時点で普及指導員資格試験を受験し、資格取得後は普及指導員として業務に従事します。なお、採用前の実務経験によっては採用後2年以前に資格試験を受験できる場合があります。



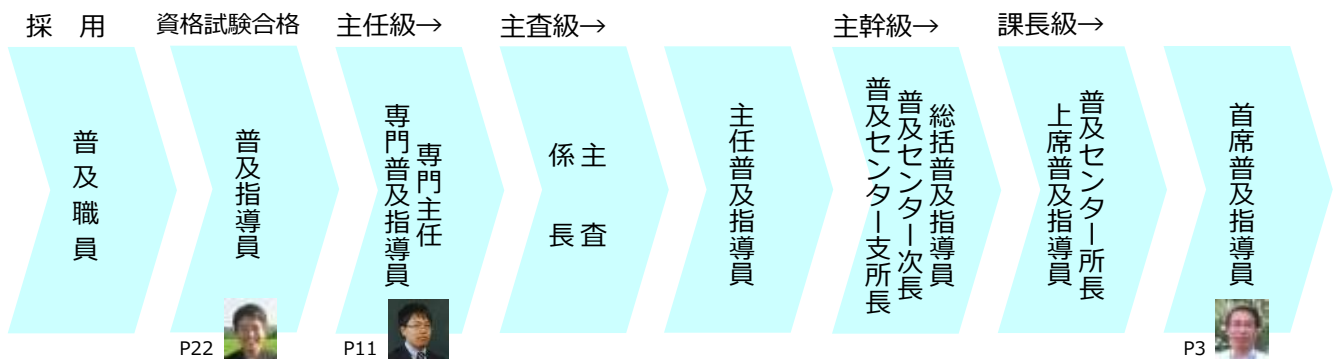
普及職員の専門項目

専門性を活かした組織的な普及活動を行うため、普及指導員一人ひとりに「専門項目」を設定しています。普及指導員資格試験に合格すると、**作目項目**を担当し、専門項目ごとに調査研究活動を行います。また、地域で普及指導等の実務経験を積むことによって、**作目横断項目**も併せて担当することができます。

作目項目	専門項目	活動内容
作物	稲作、畑作	稲作・畑作の栽培、出荷調整等に係る生産管理や経営管理に関する技術及び知識
園芸	野菜、花き、果樹	野菜・花き・果樹の栽培、出荷調整等に係わる生産管理や経営管理に関する技術や知識
畜産	乳牛・飼料作物、肉用牛	家畜の飼養管理、飼料作物の生産管理や経営管理に関する技術及び知識

作目横断項目	活動内容
土壌・肥料	土壌診断、土作り及び施肥技術の改善等、土壌及び肥料に関する技術及び知識
植物保護	作物に対する病害・虫害等の低減及び天敵等有用動植物の利用等に関する技術及び知識
高付加価値化	食材の利活用技術、加工・流通事業活動、農畜産物の高付加価値に関する技術及び知識
経営・労働	経営管理、労働環境の改善、農作業の安全・効率化等に関する技術及び知識

昇任の流れ



●人事異動について

・平均3年～5年で異動

場合によって異なりますが、1か所での勤務年数は3年から5年となっています。

・キャリア申告制度

人事異動に関する希望や自らのキャリアプラン、ワークライフバランスに関する考え方などを申告することができ、道として適材適所の人事配置や職員のキャリア形成支援等を実施しています。



普及職員の研修

地域や農業者から信頼される高度な技術力や経営管理手法を指導する能力、課題解決能力の向上を図るために、様々な研修が用意されています。

(主な研修)

新任者早期養成研修

採用3年目までの新任普及職員を対象に、技術や経営の基礎的な指導力、普及方法、コミュニケーション能力を習得するための研修で、集合研修や農家派遣研修など

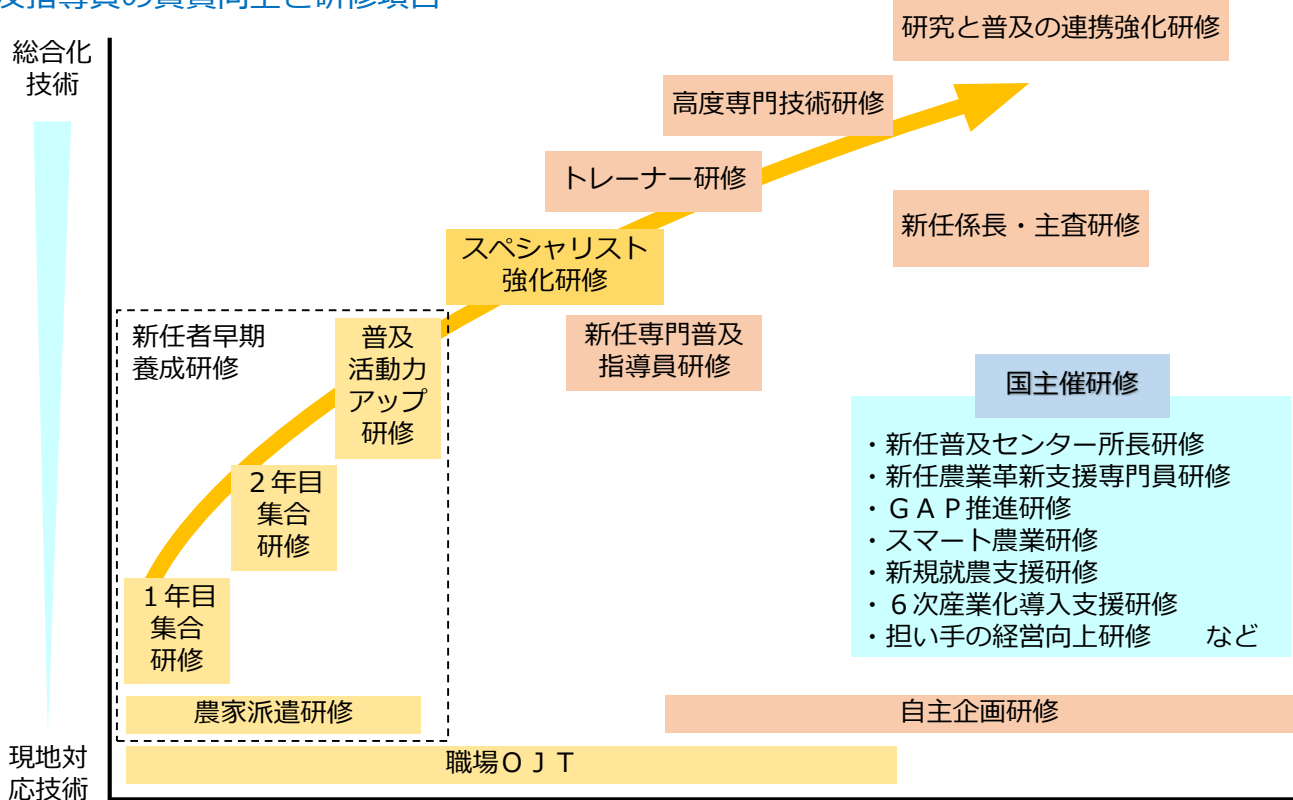
スペシャリスト強化研修

採用10年目までの普及指導員を対象に、作目毎の高度な情報や専門技術を習得するための研修

指導力養成研修

専門項目をより高度化し、地域農業の課題解決に向けて効果的な提案や指導を行う能力を習得するための研修で、トレーナー研修、新任専門普及指導員研修、高度専門技術研修、新任係長・主査研修、研究と普及の連携強化研修、自主企画研修

普及指導員の資質向上と研修項目



説得力

コーディネート力

経験年数	1年目	2年目	3年目	～10年目	～20年目	20年目以降
------	-----	-----	-----	-------	-------	--------

道が求める人材

北海道では、公務員として欠かせない資質・能力に加えて、時代や環境の変化にも柔軟に対応しながら、道としてのミッションを理解し、地域の様々な課題解決や潜在力の発揮に向けて行動できる人材を求めています。

公務への目的意識を持ち、多くの人と力を合わせて、粘り強く仕事をやり遂げる人材

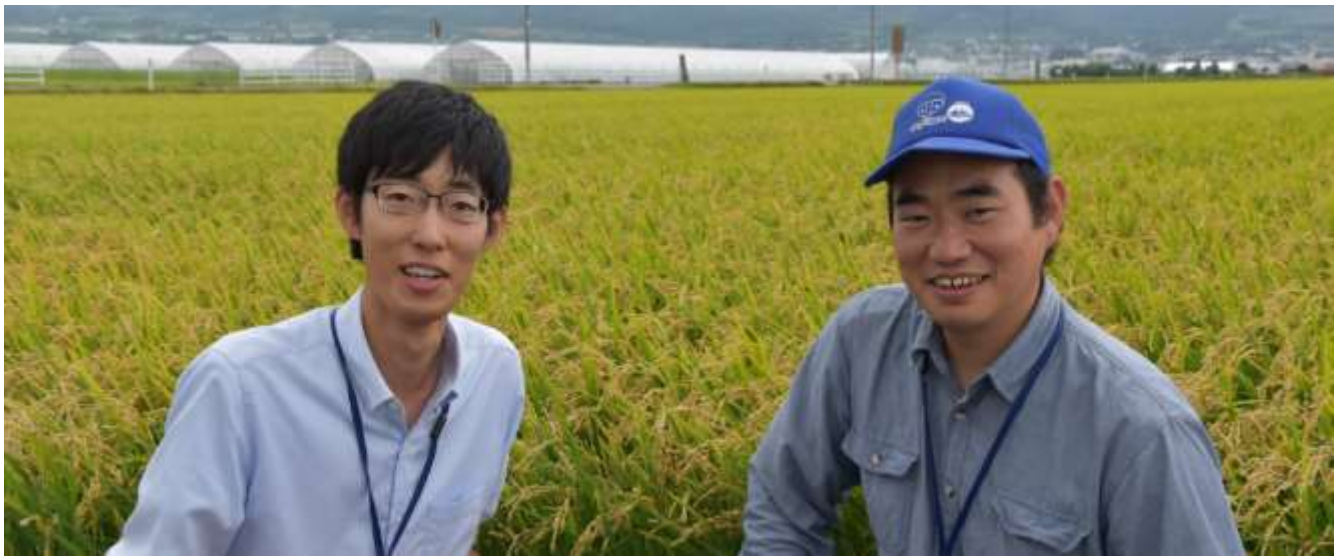
責任感
協調性

幅広い視野をもち、主体的に課題を立てて、困難に立ち向かえる人材

構想力
主体性

常に改革マインドをもち、チャレンジ精神と行動力のある人材

改革意識
行動力



「実感のある仕事」です!

(写真左) 4年目職員

■北海道出身

■北海道大学大学院環境科学院 修了

令和元年度入庁

渡島農業改良普及センター本所

NARITA KEISUKE

成田 圭佑

普及職員になったきっかけは？

園芸が趣味で、農業に関わる仕事に興味がありました。大学時代、いちご農家にインターンシップに行ったところ、普及職員が現地で活躍する姿を目にしました。農業者に病害虫の説明をしたり栽培に関する講義を行う様子を見て、自分もこの仕事をしたいと考えるようになりました。

現在担当している仕事は？

果樹を中心に園芸作物を担当しています。現地で調査した作物の生育状況や病害虫発生データを基に、農業者へ栽培管理に関する情報提供を行っています。また、係で調査や現地巡回に出かける際はできるだけ同行し、担当地域の現状や作物について教えてもらっています。

成田さんにとって、長瀬さんはどのような存在？

長瀬さんはC区分採用（民間企業経験者の採用枠）なので高い目標かもしれませんが、4年後には自分もこうなりたい！という身近な目標になっています。幅広い知識を武器に、農業者からの相談に真摯に答える姿勢が厚い信頼を得ているようです。

トレーナーとしての心がけていることは？

新人が成長できる場を準備することです。普及職員に最も求められる課題解決能力を高めるには、単に現場に同行させるだけでなく、自ら考え、体験することが必要です。手取り足取り指導したくなりますが、黙って仕事を任せ、困った時に相談してもらえ関係を築くことを心がけています。

新人時代の思い出は？

採用1年目は超濃密で、自身の成長を日々感じました。採用前は種苗メーカーに勤めていましたが、採用され担当したのは、経験が無い水稲でした。不安な気持ちもありましたが、先輩方が親身に指導してくださり、2年目には単独で業務をこなせるようになりました。今では前職の知識も活かし、野菜と水稲両方を担当しています。

成田さんへのメッセージ

園芸が大好きな成田さん、若手農業者ともすぐ仲良くなり、毎日充実している様子で安心しています。仕事が正確なのも助かっています。これから徐々に仕事を任せていきます。一緒に北海道の農業を盛り上げましょう。

いい仕事してますね

(写真右) トレーナー

■神奈川県出身

■東京農業大学生物産業学部 卒業

平成28年度入庁 [C区分採用]

渡島農業改良普及センター本所

NAGASE AKIRA

長瀬 晶



MESSAGE 04



北海道の農村は
いいところです。

- 北海道出身
- 北海道大学大学院農学院 修了

平成28年度入庁
胆振農業改良普及センター東胆振支所

MISHIMA YUSUKE
三島 悠輔

普及職員になったきっかけは？

以前から北海道農業に関わる仕事に就くことを考えていました。大学院修了後は金融面から農業に携わりたいと金融機関に就職しましたが、自然の中で働けることや農業関係者の鷹揚さなどを再認識し、学生時代から現場との近さに魅力を感じていた普及職員に転職しました。

現在担当している仕事は？

東胆振支所で畜産担当として業務を行っています。具体的には、牧草や飼料用とうもろこしなどの飼料作物の調査や生産性向上に向けた畜産農家への助言を行ったり、個々の農業者の経営改善に向けて農協などと協議し、普及センターが主に担う技術的な支援を行っています。また、北海道農業研究センターが行っている飼料用とうもろこし子実部位の生産・利用に関する研究・実証において、安平町での普及や実証面で関与するなど、先進的な農業技術に触れる機会もあり刺激を受けています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

民間企業であれば多くの場合は、自社の利益を確保した中で取引相手の利益を考える必要があります。一方で、公務員である普及職員にはそういった制限がないので、農業者の利益を十分に考えて活動することができます。この点は独自性があり、普及職員の仕事の魅力でもあると感じています。



上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

13名が所属する東胆振支所には、和気あいあいとした雰囲気があります。所内のメンバーで道営競馬場に行き、ジンギスカンを食べるといったバラエティ豊かな親睦行事があります。

休みの日の過ごし方は？

家族と過ごすことをメインに、家庭的に許される範囲内でサッカー少年団の指導や読書などを行っています。最近、長女が生まれたので(28ページ)、今後は育児にも注力したいと考えています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

月並みですが農業者から頼りにされ、地域の発展に貢献できる普及職員になることです。現場での業務をこなすことで知識・技術を着実に蓄積し、一人前の普及職員となるのが当面の目標です。

これから入庁する後輩へのメッセージ

普及職員のほかにも農業現場の近くで働くことができる職業はたくさんありますし、それぞれに独自性や魅力があると思いますが、普及職員の仕事も決して負けていません。普及職員の仕事をもっと知りたかった方は実際に直接話を聞くのが一番良いと思います。可能であれば、大学等で行われている説明会などに参加してください。その上で志望してもらえると幸いです。皆さんの就職活動や転職活動が良いものとなることを願っています。



MESSAGE 05



為せば成る!

■北海道出身

■道立農業大学校

農業経営研究科 卒業

平成30年度入庁

後志農業改良普及センター北後志支所

HIRAISHI

RUI

平石 留偉

普及職員になったきっかけは？

出身校の道立農業大学校の職員が普及職員だったことがきっかけで、普及職員のことを知り、仕事内容などを聞いて目指すようになりました。また、農業大学校の生徒は農家の後継者が多く、同級生も後継者が多かったため、何か力になりたいと思い、普及職員を志望しました。

現在担当している仕事は？

担当地域である北後志管内は、道内屈指の果樹、野菜の産地です。主に私が担当しているのは園芸（野菜）で、業務内容は作物の生育状況の調査や土壌診断などです。まだまだ分からないことが多いので、分からなかったことはメモをとり、自分で調べたり、上司に聞いたりして情報収集することに努めています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

採用1年目を振り返ると、自分でやったことは多くはないですが、それでも農家の方に「ありがとう」と言ってもらえることがありました。直接「ありがとう」と言ってもらえる職業は少ないと思うので、やりがいと魅力を感じます。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

上司と年の差があり最初は心配でしたが、仕事のことだけではなく、生活面での悩みなどの相談にも乗ってくださり、親切にしてもらっています。同期とは全員とSNSでつながっていますし、気軽に相談できる仲間がいることはとても心強いです。

ある一日の業務スケジュール

出勤
 8:45 朝礼
 9:10 担当地域の巡回、
 作物の生育状況調査
 12:00 昼食
 13:00 調査結果のデータ入力、
 栽培講習会の資料作成
 17:30 退庁



休みの日の過ごし方は？

休日は、道内でもまだ行ったことのないところがたくさんあるので「ご当地グルメ&温泉一人旅」をしています。また、後志管内は道内屈指のスノーリゾート地なので、冬は怪我をしない程度にスノーボードを楽しみたいと思っています。

これから入庁する後輩へのメッセージ

普及職員は北海道の基幹産業である「農業」を支えるといった、スケールの大きな仕事です。また、地域の課題を解決するために、農家や関係機関の方々と連携し、地域がよりよい方向に向かっていくことを体感できるのは普及職員ならではの思いです。

採用試験は結構難しく、試験勉強は大変ですが、諦めなければ必ずと道は開けてくると思います。



MESSAGE 06



普及の力で北海道の農業を
盛り上げましょう。

- 北海道出身
- 酪農学園大学酪農学部 卒業
- 元 農協職員

平成29年度入庁

網走農業改良普及センター遠軽支所

YOSHIDA KOUHEI
吉田 光兵

普及職員になったきっかけは？

私は道内出身で大学卒業後は農協職員として営農指導課と生産資材課で4年間勤務していました。そこで普及員の人と一緒に仕事をしているときに「全道各地で農業現場に携われる仕事がしてみたい」との思いから、普及職員の採用試験を受験し、平成29年から北海道の普及センターで働くことになりました。

現在担当している仕事は？

現在は遠軽町、湧別町上湧別地区で畑作、園芸農家を中心に巡回しています。園芸に関しては、たまねぎの品種比較試験や青空教室を通しての技術支援、畑作では秋まき小麦、大豆の生育調査を実施しています。特に、重点対象地区の遠軽町生田原安国地区では大豆の栽培を昨年からは開始したので、は種前の栽培支援、現地講習会などの栽培支援を積極的に実施しています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

係内や自分で設定した目標や課題をやり遂げたとき、関係機関や農家さんと協力して課題解決に取り組んだときにやりがいを感じます。印象に残っていることは、大豆の講習会で、はじめて講師を務めたときに農家の方から助言等をいただき助けてもらったりしたことです。



休みの日の過ごし方は？

買い物や観光を含め他地域などに外出することが多いです。また、オホーツクでは若手職員を中心に普及指導員資格試験対策や一太郎の使い方等を学習する「自主ゼミ」という活動を年4～5回開催しているので、若手の集まりにも積極的に参加しています。

今後の目標は？

自分自身の力で畑作・園芸農家を巡回し、技術指導、現場対応できるようになることです。また、生産者や関係機関に頼られる存在になることです。そのためにも、たくさんの人と関わり協力・連携して業務を進められる普及員を目指していきたいです。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

現在16名所属する遠軽支所では、若手職員も増え、先輩・後輩問わず仲良く業務を行っております。業務等で困ったときは気軽に相談できる環境です。また、職場では業務内容以外にもプライベートの話などの雑談も交えるなど明るい雰囲気となっています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

農業の技術を身につけることはもちろん、農家や関係機関との関わりを持つことも非常に重要です。普及員だけでなく、農家や関係機関の協力があって始めて普及の仕事が成り立つと思います。そのため、生産者や関係機関のつながりを大切にしながら普及の仕事を進めていくことで自分自身も成長していくと考えています。入庁してから資格試験の勉強等で大変かと思いますが、一生懸命努力すれば、たくさんの知識が身につきます。



MESSAGE 07

雨にも負けず 風にも負けぬ
又々な心身下

■ 福岡県出身

■ 帯広畜産大学大学院

畜産学研究科畜産生命科学専攻

平成30年度入庁

釧路農業改良普及センター釧路中西部支所

KITAMURA

MIKA

喜多村 美花



普及職員になったきっかけは？

北海道には「酪農を学ぶなら日本一の酪農大国北海道だ！」という気持ちで、大学進学をきっかけにやってきました。普及職員を目指したのは、大学での研究で様々な農業者と関わってきたこともあり、もっと北海道の農業と農業者を盛り上げていきたいと思ったからです。

現在担当している仕事は？

私は釧路地域で畜産を担当しています。業務内容は、主に飼養管理改善や自給飼料生産およびサイレージ調製の支援を行っています。技術面以外にも、若手農業者や女性農業者の勉強会および視察の企画や、農作物生育状況調査および収穫調査などを行い、農業者や関係機関に情報提供を行っています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいとは？

この仕事の魅力は、人との繋がりがあってこそできることです。牧場や地域の課題は、職場だけでなく、その地域の農業者、関係機関など多くの人と協力して、改善策を見つけます。また、農業者に知識をただ伝えるだけでなく、その牧場に何が最適か試行錯誤しながら考え、一緒に取り組むこともやりがいの一つです。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

職場は半数が若手の10名で活動しています。先輩後輩上司に関わらず、分からないことがあれば相談できる環境です。今は自粛中ですが、職場メンバーの飲み会や釧路管内の普及センターでのレクリエーションもあり、仕事以外も全力で楽しんでいます。

休みの日の過ごし方は？

春は山菜採り、夏は釣り、秋はおいしいものを食べまくり、冬はワカサギ釣りや雪山で遊びます。釧路では地域ならではの行事があり、女相撲大会では女同士土俵上でせめぎ合い、釧路湿原マラソンを走り、冬は職場の方と長靴アイスホッケーに出場しています。

今後の目標やチャレンジしたいことは？

酪農といっても、飼養形態、経営状態、家族・構成員、地域のことなど出てくる課題は様々です。仕事において、目の前にある事象だけではなく、広い視野を持ちつつ相手の気持ちに寄り添い、共に考え、行動できる人になりたいです。今年は農場経営状況の理解度向上を目指して、簿記検定に挑戦したいと思っています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

「普及員ってどんな仕事しているの？」と聞かれますが、最終的には私は「何でも屋です」と答えています。時には農業者と共に牛舎や畑で身体を動かし、農業者からの質問を受ければ、情報を得るため本や資料と向き合います。牛の飼養管理から、牧草や畑、経営管理や担い手対策など携わることは多岐にわたり日々勉強ですが、農業者や関係機関などたくさんの方との関わりを持ちながら一緒に乗り越えられるお仕事です。



MESSAGE 08



自分の持ち味を活かすなら
普及指導員!

- 千葉県出身
- 東京農業大学生物産業学部 卒業

平成30年度入庁
石狩農業改良普及センター本所

SAKAI YUUKI
酒井 悠貴

普及職員になったきっかけは？

親戚の農作業を手伝っていたこともあり、農業に興味がありました。大学進学時に北海道の魅力を知ったことと、進学先でのインターンシップを通して農業改良普及指導員に魅力を感じたことが決め手となり、北海道の普及指導員を目指すことにしました。

現在担当している仕事は？

石狩管内のうち、北広島・恵庭・千歳市の畑作物を専門に担当しています。具体的には、生育調査結果や試験データを基に、生産者へ適正な栽培管理に必要な情報提供や収量向上・品質の安定化を目指した技術提案を行っています。また、北海道の主要作物である小麦・豆類について、種子ほ場や生産物の審査、優良品種の試作・検討試験等の業務に、関係機関と連携しながら取り組んでいます。



普及職員の仕事ややりがい、印象に残っている事を教えてください。

生産現場で農家さんやJAと一緒に、農業を盛り上げていくことが普及員の醍醐味だと思います。印象に残っている事は、農家さんが困っている問題に対して提案した改善案が不十分だったのですが、「次はどんな案を提案してくれるか楽しみにしているね」と声をかけてもらったことです。

職場の雰囲気は？

明るく楽しい職場です。上司の方から声をかけてもらえるので、誰とも話すことがない日はなかったです。自然と「報・連・相」が行える職場環境ですので、スキルアップができる環境やアットホームな職場で働きたいと思っている人には合っていると思います。



休みの日の過ごし方は？

一人だとボーッと空を眺めていることが多いです(笑)。周りに多趣味な方が多く、時々一緒に遊んでもらっています。(温泉・炭鉱・酒造・神社巡り、パークゴルフ、釣り、登山、カーリング、筋トレ、BBQ、ツーリング、家庭菜園、競馬・麻雀などなど)

今後の目標は？

現在の目標としては、お世話になっている農家さんに「成長したな」と認められることです。将来の理想像は、「ニーズを把握し、それに応える新技術を提案する」「施策を理解し、施策をベースとしたニーズを作り出す」ことのできる普及員を目指しています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

農業に関する仕事は他にも多く、業務内容も不透明なため、普及職員を知らない人は意外と多いです。ですので、OB・OG訪問やインターンシップの参加をお勧めします。志望の有無に関わらず、貴重な体験ができると思います。その上で、「ここで働きたいな」と感じたら是非採用試験を受けて下さい。皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



MESSAGE 09



北海道農業の明るい未来を
いっしょにつくろう!!

■茨城県出身

■東京農業大学生物産業学部 卒業

平成28年度入庁

空知農業改良普及センター本所

ZUSHI TAKUYA

図師 拓也

普及職員になったきっかけは？

大学進学を機に北海道へ来ました。大学時代は勉強をしながら、農業シーズン通して農家でアルバイトをするという生活をしていました。大学3年生の夏に普及センター網走支所でのインターンシップを経験し、農家を支援する仕事に就こうと決意し、志望しました。

現在担当している仕事は？

道内有数の水田地帯である岩見沢市・三笠市で水稻を担当しています。労働力不足により水稻栽培が減少している中、従来の労働負担の大きい苗作りや田植え作業を省力できる水稻栽培技術として水稻乾田直播栽培が導入されていますが、栽培方法が確立されていない部分が多くあります。こうした課題を解決するため、私は栽培技術の確立に向けた導入支援や、栽培講習会や年度末検討会などで情報提供を行っています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

水稻直播研究会の成績検討会で肥料試験の調査結果報告を行いました。100名を超える農業関係者の前で報告は大変緊張しましたが、興味深く聴いてもらえ、打ち上げでは農家さんに「良かったよ」と声をかけてもらえました。翌年度にはその技術が広がり始めていて、普及という仕事の面白さを感じています。



上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

同期や年の近い先輩・後輩がいて楽しく過ごしています。先輩方は丁寧に仕事を教えてくださいます。各分野のスペシャリストが課題解決に取り組んでいてとても活気があり、刺激的な日々を過ごしています。



休みの日の過ごし方は？

同世代の農業者と遊んだり、全道にちらばる普及職員の同期に会ったり。たまに大学時代の友達に会いに東京周辺に出て行きます。札幌も近いので、飲みに出掛けることもあります。外出することが多いですが、家にいるときはコーヒーを入れて本を読んでいます。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

農村は人口減少が著しく、農業の継続には困難が積みまとうこととなります。その中で、打開策や改善案を農業者とともに考え、生き抜いていく支援をしていきたいと考えています。人間的には、転勤するときに惜しまれるような人になりたいです。

これから入庁する後輩へのメッセージ

農業が好きで、深く関わりたい方はぜひ採用試験を受けてみてください。普及職員は農家との距離が密接で、農家経営や地域を変えていけるほどの影響力を持つこともあります。そうした熱意の中で「ありがとう」と言われるこの仕事はとても充実していて面白いですよ。一緒に働ける日を楽しみにしています。



MESSAGE 10

自然や人から学び、
喜びも生み出せる仕事です。

■北海道出身

■弘前大学農学生命科学部 卒業



平成25年度入庁

上川農業改良普及センター富良野支所

KOJIMA MITSUTOSHI

小島 光利

普及職員になったきっかけは？

大学生の時に農家に研修に入り感銘を受けたことがきっかけで、農業に関わる仕事をしたいと思いました。その後、学内説明会で普及職員の仕事を知り、やりがいのある仕事だと感じたので北海道の普及職員として働くことを選びました。

現在担当している仕事は？

担当する富良野地域は、ドラマ「北の国から」や夏のラベンダーなどが有名な観光地で、国内外から多くの方が訪れます。農業は野菜を中心に畑作・水稲・果樹など多くの農作物が栽培されています。私はワインの原料になるぶどうの安定生産やトマトの新品種の導入に向けた支援などに取り組んでいます。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

前任地でさくらんぼの結実促進対策に関わる支援をしたことが印象に残っています。農家や関係機関と共に考え、問題点を探求し改善に取り組みました。特に調査や農家とのコミュニケーションの中で新たな発見があったときは、刺激的で楽しかったです。



上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

和気あいあいとした雰囲気です。若手・中堅・ベテランが互いにサポートし合っており、定期的な交流会もあり親睦を深めています。同期の仲間とは冬にウインタースポーツや温泉にいったり楽しんでいます。

休みの日の過ごし方は？

コーヒーが好きなのでカフェ巡りなどしています。家族と出かけるときは、道内の観光地やお祭りに出かけます。家にいるときは、映画鑑賞や読書などしてゆったりと過ごしています。

異動を経験して感じたことは？

異動することで、地域の魅力を体感することができます。特に地域の農産品を食べる機会が多いことは嬉しく、農産物や景観など地元の人にとっては当たり前のことが、自分にとっては新鮮で魅力的に思えます。地域特有の良さを知ることが自分の視野を広げることにつながると思います。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

今後はより説得力のあるデータを収集・農家に提示し、多くの農家や関係機関の方々と巻き込みながら、地域の課題解決にあたっていきたいです。

これから入庁する後輩へのメッセージ

多くの自然（作物など）と向き合い、多くの人と向き合う仕事です。自然や人から学び、地域をより良くしていくことが可能な仕事だと思います。地域の方々と一緒に考え、一緒に喜び、農家の笑顔をみれたりすることは、やりがいがあります。一緒に働けることを楽しみにしています。



MESSAGE 11



毎日楽しみです。

- 北海道出身
- 弘前大学 農学生命科学部 卒業

平成31年度入庁
十勝農業改良普及センター本所

MANABE TOMOHIKO

眞鍋 朋彦

普及職員になったきっかけは？

北海道の農業に関わる仕事をしたいと思っていました。いろんな仕事がある中でより現場に近い仕事ができる普及員という仕事を知り、志望しました。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

十勝本所は、現在20名と比較的大きな事務所です。人数は多いですが、職場内は和気あいあいとして話しやすい雰囲気です。また、日頃の業務の中で、わからない点や疑問点があっても聞きやすい先輩ばかりですので助かっています。

現在担当している仕事は？

私は十勝本所で畑作担当として、業務を行っています。十勝は全道屈指の畑作地帯です。未だにわからないことだらけなので、わからないことは職場の上司や時には農業者にも聞いて日々勉強しています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

なにかあったらすぐに農業者から連絡・相談がくるような普及員でありたいです。日頃から連絡・相談が絶えない先輩をみると、農業者からの信頼が抜群でした。そんな普及員になれたらと思っています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

日頃から農業者に、「ありがとう」や「助かった」と言ってもらえることがやりがいです。そういった言葉をもらえると、「また次もがんばろう」と思えるので、次の仕事のモチベーションにも繋がる点も魅力だと思います。



休みの日の過ごし方は？

ドライブが好きなので、車で全道各地いろんなところへ行ったりしています。また、職場の先輩と仕事終わりに温泉に行ったりしています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

普及員の仕事を、一言で表そうといっても中々難しいです。先輩方でも様々な仕事の仕方があって、それぞれ自分にあった仕事の仕方をしています。そういう自分にあった仕事の仕方ができるのも普及員の魅力です。ただ、仕事のやり方は違えど、“地域農業や農業者のための仕事”という部分は普及員全員一緒だと思います。もし、地域農業や農業者のために仕事がしたいという方は、是非採用試験を受けてもらえればと思います。インターン等もお待ちしております。



MESSAGE 12

北海道農業を
一緒に支えていきましょう!

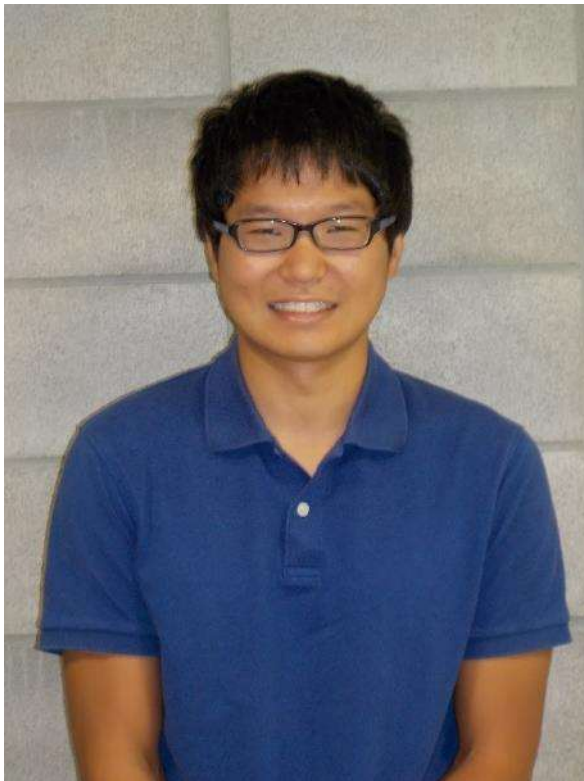
- 北海道出身
- 山形大学農学部 卒業

平成29年度入庁

上川農業改良普及センター本所

HAYASE RYOHEI

早勢 怜平



普及職員になったきっかけは？

大学進学を機に道外に出たことで、北海道がどれだけ魅力的な場所かを再認識したため、北海道で働くことを目標にしていました。普及指導員として勤務経験のある教授の話聞いたことがきっかけでこの仕事を知り、道の普及職員についてHP等で調べるようになりました。

現在担当している仕事は？

私が担当する旭川市は、豊かな水資源と肥沃な土地、気象条件に恵まれており、道内でもトップクラスの米産地として知られています。こうした地域にあって、私は水稻をメインに作況や実態調査における生育調査を担当したり、旭川市各地区で開催される栽培講習会に参加して、農家と共に日々勉強しています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

自分で勉強した知識や上司に教わった技術を理解し、それを農家に正確に伝えることができた時に、農家から感謝の言葉をいただいたことが嬉しかったです。田植え時期に農家研修に参加して、実際に農家の仕事を体験したことも印象に残っています。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

社会人になりたての頃は、生活面や仕事でわからないことが多く、不安でいっぱいでしたが、職場の方々が親切にわからないことを教えてくれました。休日には職場の方々とスポーツを行ったり、飲み会をすることで親睦を深めています。

休みの日の過ごし方は？

職場のある上川管内の市町村を中心に自転車や車で外出し、北海道の自然を満喫しています。また、地域で行われるお祭りやマラソンなどのイベントになるべく参加しています。



今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

直近の目標は普及指導員資格を取得し、上司の力を借りずに一人でも現場対応でき、農業者からの信頼を得られるような一人前の普及指導員になることです。普及事業の役割を理解し、農業者のそばに立つ普及を目指していきたいです。

これから入庁する後輩へのメッセージ

普及職員の仕事は、農業者と直接関わることができるため、直に農業者からの感謝の言葉をいただけるやりがいのある仕事だと思います。また、北海道農業の未来を創っていると思える仕事でもあるので、日本の食料自給を支えるといったスケールの大きさも感じることもできます。興味のある方はHPを見るなどして普及職員の仕事を調べてみるといいと思います。皆さんの受験、そして入庁をお待ちしています。



MESSAGE 13



農家さんと共に
北海道農業をつくっていく。
そんなお仕事です。

■北海道出身

■筑波大学大学院

生命環境科学研究科 修了

平成30年度入庁

空知農業改良普及センター本所

TANIMURA AKIHO

谷村 秋穂

普及職員になったきっかけは？

大学の指導教員が他県で普及職員をされていた経験があったので、この職業を知りました。大学と大学院の6年間つくば市にいました。茨城県は葉菜類が多様で美味しく食生活が充実していましたが、北海道のお米やジャガイモが恋しくなり、道内での就職を決断しました。

現在担当している仕事は？

空知管内の美唄市と月形町で稲作担当をしています。道内でも有数の水田地帯です。水稻の生育、雑草などの調査や新品種の栽培試験を通じて、農家への情報提供を行っています。講習会の資料作りを先輩職員に教えてもらいながら行っています。また、役場や農協と共に農業を通じた地域振興について協議したり、新規就農者支援を行っています。



普及職員の仕事の魅力・やりがい、印象に残っている仕事は？

稲作の栽培技術は多様で、移植栽培と直播栽培がありますが、どちらも大切な技術で日々楽しく学んでいます。嬉しかったことは、農家へ講習会を行ったときに、熱心に聞いて質問もしてくれたこと、そして何よりも自分の名前を覚えてくれて、「一緒に頑張っているからね」と声をかけていただいたことです。

ある一日の業務スケジュール

出勤
8:45 メール・書類の確認
9:00 現地巡回、
水稻の生育や出穂状況、
収量予測などの調査
12:00 昼食
13:00 現地巡回、調査
水稻の栽培講習会
16:00 メール・書類の確認
調査結果の取りまとめや
講習会で配付する資料の作成
17:30 退庁

休みの日の過ごし方は？

おでかけすることが多いです。近くの道の駅や動物園など観光をしに行きます。同期たちとはラーメン屋さんを巡りながら、位置情報を使ってキャラクターを捕まえるスマートフォンのゲームを楽しんでいます。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

職場は雰囲気が良く、困ったときに相談しやすいです。どんな資料や本を参照すれば良いかなど具体的なアドバイスをもらうことができます。職場の皆さんによく支えてもらいながら調査や講習会などを行っています。

道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

現地で毎日刺激を受けています。デスクワークが多いと思われがちな公務員ですが、普及職員は事務所の外に出て農家と話したり、ほ場で調査を行う仕事です。なかなかイメージがわからないと思いますが、私は普及センターでのインターンシップに参加したことがあり、この仕事をざっくり知ることができました。実家や大学近くの普及センターへインターンシップに行くと、仕事の雰囲気を知らずとも良いと思います。



MESSAGE 14

農家から直接「ありがとう」
が頂ける仕事です

■北海道出身

■日本大学生物資源科学部 卒業

北海道農業専門学校 卒業

平成25年度入庁

上川農業改良普及センター大雪支所

HORITA

HITOMI

堀田

ひとみ



普及職員になったきっかけは？

大学卒業後、民間企業に2年間勤めていましたが、大学生の頃の「畑で仕事がしたい。農家の役に立つ仕事がしたい」という想いが忘れられませんでした。そんなとき、新規就農者向けのイベントで普及職員の仕事と出会い、まさにこの仕事だ！と感じ、受験を決意しました。

現在担当している仕事は？

主に畑作物を担当しています。担当地域では秋まき小麦の作付面積が大きく、地域の基幹作物となっています。秋まき小麦を安定生産するために、適正な種時期・は種量・施肥量などの技術情報を提供しています。北海道は地域によって気候や土壌等も異なるため、実際にその技術が担当地域に合っているのか実証し、説得力を持たせる工夫もしています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいとは？

調査した馬鈴しょのサイズやでんぷん価などをまとめた資料を農家の方にお渡ししたときに「この資料があるから改善点がわかるし、来年も頑張るって良いイモを作ろうと思える」と言ってくださり、とても嬉しかったです。「誰かの役に立っている」と考えるとやりがいを感じます。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

最初は分からないこともたくさんありますが、先輩たちが一緒にほ場を巡回したりする中で詳しく説明してくれるのでとても質問しやすいです。若手職員で集まって定期的に勉強会を開いたり、食事に行ったりして悩みなどを共有しています。

休みの日の過ごし方は？

家族と買い物やカフェ巡りをしたり、職場の音楽演奏が好きな人たちと集まり、楽器のセッションを行ったりしています。セッション活動では、秋にハロウィンコンサートを開催しました。休みにリフレッシュすることで仕事にメリハリをつけています。

異動を経験して感じたことは？

同じ作物でも地域により農家の考え方や栽培方法が異なることもあり、一からのスタートと感じました。不安もありましたが新しい環境に移ることは勉強になる点が多く視野も広がるため、自分の成長につながっています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

農業経営を鑑みた栽培技術を提案できる普及職員でありたいです。農家が営農を続けていくためには、所得が安定した経営が必要です。提案したい技術が経営に見合っているのかを意識できるように、知識や経験を深めたいです。

これから入庁する後輩へのメッセージ

普及職員は直接農家と接して「ありがとう」「助かった」と感謝の声をいただける仕事です。「農家のため」が「農村地域のため」になり、「北海道の農業のため」と段々広がり、つながっていくところも魅力だと感じます。普及職員の仕事内容は多岐に渡るので、少しでも北海道農業に関心がある方、農家のために何かしたいという方も、やりがいを感じる仕事を見つけてもらえると思います。



MESSAGE 15



日本の食糧基地 北海道を
一緒に盛り上げよう!!

- 神奈川県出身
- 明治大学農学部 卒業

平成30年度入庁
留萌農業改良普及センター本所

TANAKA SHUNNSUKE

田中 駿介

普及職員になったきっかけは？

大学で学んだ内容に関連した仕事を探していた中で、教員の方や研究室の先輩に教えていただきこの仕事を知りました。北海道へは旅行でしか来たことがありませんでしたが、農業に関わる仕事をするなら日本の食糧基地といわれる北海道で！と思い立ち北海道での就職を選択しました。

現在担当している仕事は？

主に水稲の栽培技術に関する普及業務を行っています。留萌では水稲が基幹作物となっており、良食味米の産地として知られています。そのため、良食味米の安定生産にむけた基本技術励行のための情報提供や提案を行っています。また、担い手不足が大きな問題となっていることから、湛水直播栽培や高密度播種短期育苗といった省力化技術の導入支援を行っています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

担い手を呼び込むには農業で儲かることが重要な要素の一つで、そのためには確かな技術が必要だと思います。水稲のことであればあの人に聞けばいいと言われるような技術を身につけ、農業者の方や関係機関から信頼されるような普及員を目指していきたいです。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

仕事だけでなく雪国での生活面のことなどでも困ったことがあれば親身になって相談にのっていただける風通しの良い職場です。また、若手職員で集まって勉強会や情報交換を行い、悩みの共有を行ったりしています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

農業者の方と一緒に解決策を考えながら提案を行う中で、感謝の言葉をいただいたり次もよろしくといったような声をかけていただいたりと、現場の声を間近で聞きながら働けることがこの仕事のやりがいだと感じます。



休みの日の過ごし方は？

春はサクラマス、夏はヒラメ、豆イカ、ソイ、秋はサケを狙った海釣りをして北海道の自然を満喫しています。また、広大な北海道でのドライブや美味しいもの巡りも楽しみの一つです。



これから入庁する後輩へのメッセージ

農業に関連した仕事をしたい、現場により近い仕事をしたいという方は普及職員の仕事が向いていると思います。道外出身の方で見知らぬ北海道で普及員としてやっていけるか不安な方もいるかと思いますが、この仕事は日本の食を支えている北海道だからこそできるやりがいのあるものです。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。



MESSAGE 16



やった分だけ、やりがい
返ってくる 仕事です!!

- 静岡県出身
- 信州大学農学部 卒業

平成29年度入庁
道立農業大学校教務部

KINPARA NOBUHIRO
金原 伸大

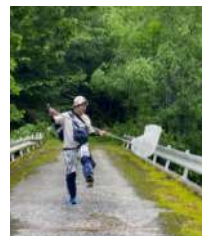
普及職員になったきっかけは？

大学を卒業後、本州の肥料メーカーの営業担当として就職。北海道に転勤してきた際に、先輩にまず行けと言われたのが農業改良普及センターでした。それから普及職員と仕事をともにすることが多く、その中で農業者に限らず様々な立場の人から頼られる北海道の普及職員に次第に憧れを抱き、転職に至りました。

現在担当している仕事は？

一つ目は学生（稲作経営専攻コース）の担任業務です。農業簿記や経営分析に関する授業のほか、各種研修・実習支援、普段の勉強や学校生活に関する相談に対応しています。

二つ目は一般研修に関する業務で、道内の農業者らが参加する農業大学校での研修（栽培技術～経営分析の研修）を開催するにあたり、裏方業務として外来講師の依頼（自身が講師になることも？）や、研修生の受入準備等を行っています。



趣味は蝶の採集

異動を経験して感じたことは？

私は「転勤＝新しい挑戦の機会」と捉えています。困っている人の話を聞き、共に悩み、提案するという仕事の手法は前職の時も転職してからも同じでしたし、そのスタンスがどこまで通用するのかを、転勤を機にいろんな場面で確かめていこうと思っています。

普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

普及職員の仕事は、農業者への新しい技術の普及や作物の生育収量調査など比較的地味なものが多いです。しかし、その分地域に根を張って現場の課題と向き合えることで、効率・成果重視であった民間企業にいた頃にはなかった農業者の『生』の反応を見ることができました。まさしく、そこがこの仕事の魅力だと思います。

理想の将来像は？

最初に抱いた憧れ通りに、誰からも頼られる「地域の窓口」となる事が理想の将来像です。そのために、研修等により自身の専門知識を深めるとともに、自分なりの地域マネジメント手法（関係機関との連携等）を日々業務の中で勉強しています。



道の普及職員を志望する皆さんへのメッセージ

日々変化する世界情勢、食糧危機への不安等から、日本農業に対する世の中の関心は高まっています。特に北海道は日本農業の柱である一方、労働力不足等、他の問題も抱えながら生産能力の維持向上を図らなければならないという大きな課題を抱えています。そして、その最前線で農業者と共に働ける普及職員という仕事は、大変な反面、「やりがい」もこれまでになく高まっています。少しでも興味を持った方、一緒に働きましょう！



MESSAGE 17



北海道農業に貢献して、
一緒に日本の食を支えよう!

- 兵庫県出身
- 神戸大学大学院農学研究科 卒業

令和元年度入庁
胆振農業改良普及センター東胆振支所

FUJIMOTO MARI

藤本 麻里

普及職員になったきっかけは？

農協（前職）の営農経済事業部で様々な仕事を経験する中、今後は専門性を極めながら、より農業者に近いところで、力になれる人になりたいと思い、普及職員を志望しました。北海道には普及職員の知人がいたこと、また年齢制限がなかったことが、採用試験を受けるきっかけとなりました。

現在担当している仕事は？

園芸担当として、レタスやトマトなど担当地域（むかわ町）の主要な品目の窓口担当を任せてもらっています。具体的には農協職員や部会役員と連携し、現地巡回や技術情報の発信等を行っています。また新規参入者の受入を積極的に行っている地域のため、担い手センターと連携し、研修生や就農5年以内の新規参入者について、定期巡回や農業講習会等を通じた技術支援をしています。



普及職員の仕事の魅力・やりがいは？

ある程度自分の裁量で、1日のスケジュールを決められる仕事です。農業者と信頼関係を築き、感謝の言葉を頂けた時は、次も頑張ろうと思えます。また担当地域の農業振興に向け、複数の普及職員でチームになって対応したり、農業者や町・農協等の関係機関と連携して行う仕事は、より大きなことができるので面白く感じます。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

職員12名と少人数で、和気あいあいとした雰囲気の職場です。業務で困った時は、必ず誰かがフォローして下さるので、安心して仕事できています。業務時間外では、みんなで近くの競馬場に行ったり、公宅周辺でBBQをする等、楽しい親睦行事も行っています（感染状況が許す範囲で）。

今後の目標やチャレンジしたいことは？

まずは担当品目の声を聴くことができるよう、ほ場に出向き、農業技術力UPを目指したいです。また農業者や関係機関等との信頼関係を築いたり、他産地の情報収集等しながら、地域の目指す将来像に向けて、地域と一緒に考え、提案できる職員になりたいです。

これから入庁する後輩へのメッセージ

普及職員は、農業技術の面から、地域農業・農業者を支える仕事です。栽培方法や気象などの環境条件等で、日々作物の生育状況は変化するので、農業者と共に学びを積み重ねていくことができます。また農業技術だけに留まらず、地域と一緒に将来像を描いたり、目標に向かって対策を講じることができるのも魅力の一つです。北海道の農業に貢献したい方は、選択肢の一つとして、普及職員をご検討下さい。



MESSAGE 18



北海道の農業は魅力的です!

■北海道出身

■島根大学生物資源科学部 卒業

令和元年度入庁

留萌農業改良普及センター南留萌支所

ARAKI

KENGO

荒木 健吾

普及職員になったきっかけは？

短大時代の指導教員が北海道で普及指導員をされていた経験がある方で、その恩師から普及職員の仕事について聞いたことがきっかけで普及職員の採用試験を受けました。また、道外に出たことで、北海道の食や自然の豊かさを再認識し、魅力ある北海道へ帰る決断をしました。

現在担当している仕事は？

南留萌地区(留萌市、小平町、増毛町)は水稻を基幹作物として、畑作・野菜・果樹などを組み入れた複合経営が営まれています。私はその中で水稻を担当しており、水稻の生育や病害虫の発生状況を調査し、農業者へ栽培管理に関する情報提供を行っています。また、地域で取り組まれている水稻直播栽培技術の確立に向けた支援などにも取り組んでいます。



普及職員の仕事の魅力・やりがい は？

初めて若手農業者を対象とした研修会の講師を務めた際に、若い農家さんが私の話を熱心に聞いて、質問してくれたことは印象に残っており、事前に多くの時間を費やして資料の作成や説明する練習をした甲斐があったなど感じました。

上司・同僚との関係や、職場の雰囲気は？

南留萌支所は、6名と他のセンターと比べると人数の少ない職場です。振興局内にあるため、農務課や農村振興課など違う課とも交流できることも魅力です。先輩方には各分野の専門知識を教えて頂き、日々勉強しながら普及活動にあたっています。

休みの日の過ごし方は？

休みは趣味でもあるドライブや食べ歩きに出かけています。留萌管内は甘エビやタコなどの海産物やソフトクリームやチーズなど乳製品、さくらんぼやりんご等の果物と魅力ある食に溢れており、楽しい食ライフを満喫しています。

今後の目標やチャレンジしたいこと、理想の将来像は？

農業者のそばに立ち、農業者から頼りにされる普及指導員になることです。そのために専門分野に関する知識や技術をより深めることはもちろん、農業者の経営に対する分析・アドバイスができるよう農業経営についても理解を深めたいと考えています。



これから入庁する後輩へのメッセージ

普及職員の仕事は、他の公務員と異なりデスクワークよりも現地で農家さんと直接関わることが多いやりがいのある仕事だと思います。普及職員に少しでも興味がありましたら、道庁が主催している説明会やインターンシップに行ってみるなど、直接普及指導員に話を聞いて仕事の内容を深く知ることも良いと思います。



採用試験の概要

2022年度



普及職員（農業）		A区分		C区分
		第1回	第2回	
受験資格	年齢など	22歳～30歳		31歳～59歳 (社会人経験5年以上)
	学歴など	大学（短期大学を除く）又は都道府県立農業講習施設や農業者研修施設等（北海道内では、道立農業大学校の研究課程が該当）を卒業又は卒業見込みの方		①大学（短期大学を除く）又は都道府県立農業講習施設や農業者研修施設等（北海道内では、道立農業大学校の研究課程が該当）を卒業又は卒業見込みの方、②又は普及指導員資格を有している方
第1次試験	試験方法	職務基礎力試験（択一式） ※社会事情、文書理解、長文読解、言葉の用法、数的理解、論理的理解、資料理解 専門試験（択一式） ※作物学、園芸学、育種遺伝学、植物病理学・昆虫学、土壌肥科学、植物生理学、食品科学、家畜育種学・家畜繁殖学・家畜生理学、家畜飼養学・家畜管理学、飼料学、農業経済学、農業経営学、農業政策、農業機械		専門試験（記述式）
	試験日程 試験地	6月19日 札幌市、函館市、東京都	9月25日 札幌市、東京都	9月25日 札幌市、東京都
第2次試験	試験方法	個別面接		個別面接
	試験日程 試験地	7月上旬～中旬 札幌市	10月下旬 札幌市	11月上旬 札幌市
最終合格発表		7月下旬	11月下旬	12月中旬

採用試験の実施状況

2021年度

普及職員（農業）		採用 予定数	申込者数	受験者数	第1次試験		最終合格	
					合格者数	競争倍率	合格者数	競争倍率
A区分	第1回	41	45	36	31	1.2	28	1.3
	第2回	10	16	12	8	1.5	6	2.0
C区分		12	10	8	7	1.1	5	1.6

●採用試験の試験区分について

道以外の都府県では、行政・普及・研究でジョブローテーションを行っており、新規採用職員はいずれかの部署に配属となりますが、道では試験区分を「農業」「普及職員（農業）」等に分けて採用試験を実施しており、「普及職員（農業）」で採用となった職員が行政や研究部署へ配属になることはありません。



採用実績

直近年度の採用者数（2018～2022）

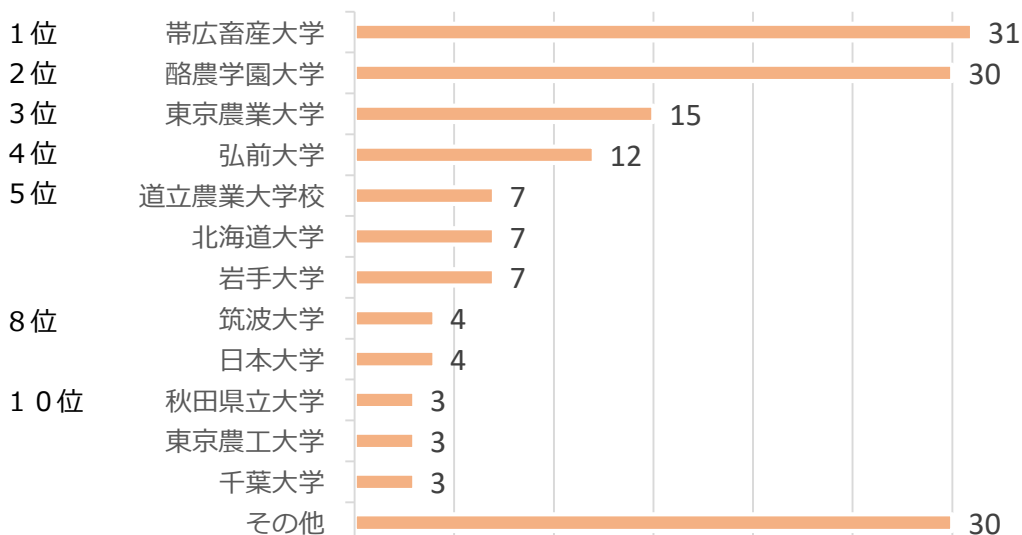
A区分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
採用者数	28	23	23	29	24
うち女性	10	7	6	12	10

C区分

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
採用者数	4	7	3	10	5
うち女性	0	4	2	0	0

直近年度の採用者出身校別人数（2018～2022）



●道外の大学からの採用について

採用者の出身校トップ上位以外の大学では、北里大学、宮城大学、新潟大学、近畿大学、神戸大学、島根大学、愛媛大学など、道外の大学からも多くの採用実績があります。

道のインターンシップ

道では、学生の職業意識向上の機会や道行政への理解を深める機会を提供することを目的として、学生の夏休み期間を中心にインターンシップ（学生実務研修）の受け入れを行っています。

- ・受入対象者 大学、大学院等に在籍する学生
- ・受入時期 毎年7月～9月のうち、1ヶ月以内
※実際には、1週間（平日5日間）の希望が多くなっています。
※大学の単位認定に必要な期間（2週間）でも受入可能です。
- ・受入所属 全道各地の普及センター（14本所、30支所）
- ・申込方法 大学等のインターンシップ担当部署で取りまとめ、郵送で申込み
※学生の方は、大学等のインターンシップ担当窓口にご相談ください。



●普及センターにおけるインターンシップについて

先輩普及職員の中には学生時代に普及センターでのインターンシップに参加したという職員も多くいます。現地巡回や各種調査など実務に近い研修カリキュラムの中、具体的な業務に携われるので、入庁後イメージしやすいなどのメリットがあります。普及センターで働く楽しさを体験してみませんか？



給与・福利厚生など



初任給

大学新卒 182,200円（令和4年(2022年)4月1日現在）

初任給は、採用される方の学歴や経歴をもとに決定されます。C区分で採用された方など勤務経験がある場合や、大学院を修了している場合には、学歴や経歴に応じて加算されます。（原則、1年に1回昇給）

諸手当

通勤手当	住居から勤務庁の間（片道2 km以上に限る）を交通機関等を利用して通勤する場合などに支給されます。
住居手当	民間のアパート等（家賃12,000円超/月）を借りて居住する場合に支給されます。 （家賃の月額－23,000円）÷2（※17,000円を限度）＋11,000円
扶養手当	扶養親族（配偶者や子など）がいる場合に支給されます。
単身赴任手当	採用や人事異動に伴い転居し、同居していた配偶者とやむを得ない事情により別居することとなった場合などに支給されます。
期末・勤勉手当	民間のボーナスに当たるものとして、6月及び12月の年2回、人事評価の結果・勤務の状況に応じて支給されます。
寒冷地手当	11月から翌年3月までの5ヶ月間、毎月支給されます。（道内に勤務する職員に限る）
普及指導員手当	普及指導員の資格を取得すると、手当（給料月額の12%）が支給されます。

勤務時間・休暇

勤務時間	原則として、月～金曜日の8時45分～17時30分までとなっています。（途中1時間の昼休憩）
週休日・休日	原則として、土・日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）となっています。
年次有給休暇	1年に20日（4月1日採用の場合は15日）付与され、未使用日数は20日を限度として翌年に繰り越すことができます。
その他の休暇	他に、夏季休暇（年3日）、結婚休暇、ボランティア休暇、病気休暇、忌引休暇などがあります。

子育て支援

産前・産後休暇	出産前8週間から産後8週間までの間、休暇を取得できます。
妊娠障害休暇	妊娠中の職員がつわり等で勤務困難な場合、14日以内で休暇を取得できます。
配偶者出産休暇	3日以内で休暇を取得できます。
育児参加休暇	5日以内で休暇を取得できます。
育児休業	養育する子が3歳に達する日までの間、休業を取得できます。
育児部分休業	養育する子が小学校に就学するまでの間、1日2時間以内で休業を取得できます。
育児短時間勤務	養育する子が小学校に就学するまでの間、勤務時間を短縮できます。（週19時間25分～24時間35分の勤務）
子の看護休暇	養育する子が中学校に就学するまでの間、子ども一人につき5日取得できます。



↑ 配偶者出産休暇中の普及職員



職員公宅

道内各地に世帯用や単身者用の職員公宅が整備されており、空き状況に応じて入居が可能です。

●働き方改革の取組について

道では、仕事と子育て等を両立できる職場づくりを推進するための取組を進めています。時間外勤務の削減や年次有給休暇の取得促進のほか、職員が出勤時間を選択し退庁時間を早めたり遅めたりできる時差出勤を実施することで、公務能率の向上とワークライフバランス（仕事と生活の調和）を図っています。



よくある質問 Q&A

(採用試験)

Q1 出身地が道外ですが、不利ですか。出身大学が道外の大学ですが、不利ですか。
採用試験において、出身地や出身大学・学部などによって有利、不利になることはありません。実際に、道外出身者も多く活躍しており、しっかりとした目的を持っているのであれば、道外出身だからといって不利になることはありませんので、北海道のために働きたいと思っているのであれば、採用試験を受けてほしいと思います。
Q2 試験に合格しても、採用されないことはありますか。
最終合格者の数は、退職者数の見込などを基に決定していますので、状況によっては採用されない場合もありますが、近年は、受験時などに虚偽の申告をした場合や、健康診断の結果、勤務できない健康状態である場合などを除いて、全員が採用されています。
Q3 試験区分について、「普及職員（農業）」と「農業」の仕事には、どのような違いがありますか。
「普及職員（農業）」で採用された場合は、普及センターに配置され、普及指導員資格（国家資格）を有した職員の下、直接農家などに出向き、生産技術の指導や各種講習会を行うなど、農業生産に関わる業務に従事します。その後、普及職員として採用後2年を経過した時点で普及指導員資格試験を受験し、資格取得後は普及指導員として農業の普及指導業務に従事します。また、試験区分「農業」で採用された場合は、本庁農政部や(総合)振興局等に配置され、主に北海道の農業の振興や食の安全・安心に携わる政策の推進等の業務に従事します。

(勤務条件)

Q4 土曜日出勤などがある民間企業もありますが、普及職員はどうですか。
原則、完全週休2日制で土・日曜日は休みです。ただし、生産者対応などにより、休日や夜間の勤務がある場合もありますが、時間外手当の支給や週休日の振替の対象となります。

(仕事内容)

Q5 農協でも普及センターと同様に営農指導を行っていますが、どのような違いがありますか。
農協の営農指導員は、農協の組合員である農業者に対して支援指導を行っていますが、公務員である普及センターの普及指導員は、全体の奉仕者として、広く地域の農業者に対して技術面や経営面での支援を行っています。
Q6 専門項目はどのようにして決定されるのですか。自分の研究内容を活かすことはできますか。
採用後2年間の実務経験を積み、普及指導員に必要な専門知識や技術、普及方法等を身に付けていく中で、地域や農業者に対して十分な指導・支援を行う力量を具備していることを普及センター所長が確認の上、普及指導員資格取得後に決定されます。勤務地の農業形態や従事する普及指導業務等によっては大学等での研究内容を活かすことも可能です。
Q7 普及センターの畑作担当者は、冬期間どのような仕事をしていますか。
普及指導員は、地域の課題に応じて普及指導対象や指導内容、実施時期等を示した普及指導計画を作成し、計画的な普及活動を行っており、営農活動が終わった冬期間に、実績の取りまとめや次年度計画の策定・見直しなどを行っています。それを基に、農業者や関係機関・団体に講習会等で報告し、次年度の提案を行います。

(人事異動)

Q8 初任地はどのようにして決定されるのですか。
本人の希望や適性などを考慮して決定しています。
Q9 転勤は何年おきにありますか。
場合によって異なりますので一概に言えませんが、1か所での勤務年数は3年から5年となっています。
Q10 異動の際、本人の希望は通りますか。
希望する勤務地について申告する機会があります。必ずしも希望どおりの異動になるとは限りませんが、本人のキャリアプランやホームグラウンド振興局制度、ワークライフバランス等を考慮して配置するよう、道として努めています。
Q11 遠隔地への異動はありますか。
勤務地は全道各地にあるため、遠隔地への異動もあり得ますが、各地に世帯用や単身用の職員住宅が用意されています。また、民間のアパート等を借りる場合には、上限はありますが家賃に応じて住居手当が支給されます。
Q12 北海道職員は転勤が多いですが、転勤することのメリットはありますか。
転勤により、様々な地域の営農手法を知ることや関係機関・団体を含めた人脈を広げることができるため、自分自身のスキルアップに役立ちます。さらには、転勤先でチーム力が発揮できたり、より良い職場環境づくりにつながります。また、他地域の情報は、農業者から大変重宝されることもあります。

道の普及職員になろう！



先輩普及職員からのメッセージ 令和4年10月

【お問い合わせ先】

北海道農政部生産振興局技術普及課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-204-5379

E-mail nosei.nokai1@pref.hokkaido.lg.jp